

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第8号 1989. 8. 9

発行

北海道ポーランド文化協会

〒060 札幌市中央区北2西2

道特会館 NDA画廊内

電話 221-8672

ポーランドの

舞台女優と語る会

【とき】 八月三十日(水) 午後六時三十分より

【ところ】 札幌市民会館三階会議室

【主催】 北海道ポーランド文化協会

スラブ文化の発掘

この度、北海道ポーランド文化協会の招きでポーランドの劇団「ガルジュニーツェ」の女優で、代表者の一人であるヤドヴィガ・ロドヴィチさんが来札されることになりました。

劇団「ガルジュニーツェ」は、小規模な劇団ではありませんが、ポーランドを含むスラブの消え去ろうとしている文化・民謡、踊り、儀式などを掘りおこし、それらの研究をもとにして劇を構成するという演劇サークルで、その活動は欧米でも注目され、すでにカナダ、アメリカ、イギリス等で講演して成功を収めるとともに、昨年のソウル・オリンピック

記念文化祭にも招待されました。

劇団「ガルジュニーツェ」は、スラブの古い文化を再現しようとする立場から、アイヌ民族の文化に多大の関心をよせており、アイヌ民族との交流も希望しています。

日本語で交流

今回はヤドヴィガ・ロドヴィッチさんを囲み、劇団の活動やポーランド演劇界の全体的動向、また演劇人から見た今後のポーランド等について語ってもらい、意見を交換する予定であります。

また、ヤドヴィガさんは、江別に本拠を置く劇団「ども」との間でワークショップを予定しており、これ

にも会員および一般の皆さんの参加を希望しています。

なお、ヤドヴィガさんは、ワルシャワ大学日本学科の卒業生で、日本留学の経験もあり、日本語が大変上手ですので、交流はすべて日本語でおこなわれます。

ポーランド語講習会

生徒募集

ポーランド語講習会の第二シリーズを開始します。もう一度、基礎からはじめますので、初心者の方もふるってご参加下さい。

【期間】 九月五日(火) から毎週一回、計十回

【時間】 午後六時三十分から約二時間

【会場】 クリスマンセンター(札幌市北区北七条西六丁目)

【講師】 熊倉ハリナ

【内容】 初級会話と初級文法

【授業料】 十回分で一万円

参加希望者は、八月末日までに電話かハガキでポ文協事務局または藤原(電話八九四一〇五七〇)までお申し込みください。

ポーランド映画の世界(第二回)

人形

1968年/ポーランド映画/カラー/シネマスコープ/165分

配給/シネマテーク・ジャポネーズ

●スタッフ

監督/ヴォイチェフ・イエジー・ハス Wojciech Jerzy Has

原作/ヴォレスワフ・ブルス Bolesław Prus

脚本/ヴォイチェフ・イエジー・ハス Wojciech Jerzy Has

カジミエシ・ブランディス Kazimierz Brandys

●キャスト

スタニスワフ・ボクルスキ

…… マリウシ・ドモホフスキ Mariusz Dmochowski

イザベラ・ウエンツカ

…… ベアタ・ティシュキエヴィッチ Beata Tyszkiewicz

イグナチ・ジェツキ

…… タデウシ・フィエフスキ Tadeusz Fijewski

スタルスキ(イザベラの従兄)

…… アンジェイ・ワビツキ Andrzej Wajtkowski

ヨアンナ(イザベラの祖母)

…… ヤドヴィガ・ガール Jadwiga Gall

クシシェフスキ(ボクルスキと決闘する男)

…… ヴィエスワフ・ゴラス Wiesław Gołas

フローラ(イザベラの従妹)

…… カリーナ・イェンドルシク Katarzyna Jędrusik

トマシュ・ウェンツキ(イザベラの父)

…… ヤンク・レチマル Jan Koccher

【日時】 九月三十日(土)

一回目 午前十時三十分

二回目 午後一時二十分

三回目 午後四時十分

最終回 午後七時

【場所】 J A B B パート2 (札幌市

中央区南八西四大京観光ビル地下)

【整理券】 前売り五百円、当日七百

円。当日清算の前売券を同封いた

します。もっとご入用の方は事務

局までご一報ください。

【共催】 北海道ポーランド文化協会

イメージガレリオ

解説

ボレスワフ・ブルス(一八四七—一九一三)は、ポーランドで初のノーベル文学賞を受賞したシェンキエヴィチを並んで、十九世紀の年代から今世紀初頭にかけてのポーランド文学を代表する大作家であります。

ブルスは、落ちぶれた小貴族の家に生まれ、大学中退後、様々の職業を経験してから作家生活に入りました。初期の作品は機知に富んだユーモア小説が主体でしたが、やがて社会問題に対する関心を深めて行きます。当時のポーランドは、ロシア・プロシア・オーストリアの三國によって分割支配されて独立を失っており、政治的、経済的、社会的に極めて困難な状況にありました。

ブルスは、「芸術は実生活の新しい特徴を明らかにするものであるべきだ」との立場から、ポーランド社会を冷静かつ客観的に描こうとしました。そうした彼の最大の代表作が長編小説『人形』であります。

この作品は、一八六三—一八六四年の対ロシア独立蜂起に参加してシベリアに流刑となった主人公ヴォクトルスキが、帰国後、精勵刻苦して小商人から大企業家に発展して行く過程を縦糸、彼と貴族の娘リザヴェタとの恋愛を横糸として、貴族や商人、労働者や農民といったあらゆる社会層の人々を描き出した壮大なパノラマであり、同時に又、腐敗墮落した社会や、甘やかされた貴族娘、つまり『人形』にしかすぎない恋の相手に絶望した知識人ヴォクトルスキの悲劇でもあります。

勤労大衆や下層農民を作品の中に取りこんだ作家はポーランドではブルスが最初でした。その意味でも、長編小説『人形』は、まさに当時のポーランド社会を生き生き描き出したエンサイクロペディアとも言える作品であります。

(灰谷慶三・北大文学部助教授)

お詫び この解説は前号の「ポーレ」のために書かれたものですが、編集部の手違いのため、前号では前半部分のみが繰り返して掲載されてしまいました。お詫びして訂正いたします。

「ポーランド映画の世界」の第二弾として、ポーランドの大作家ブルス原作、「砂時計」の巨匠ヴォイチェフ・ハス監督の「人形」の上映会を行います。一九六八年のポーランド映画で、カラー、シネマスコープです。

この映画は、一九八七年にシネマテークジャポネーズによって日本に輸入され、自主上映団体の手で上映されたことがあります。一般の映画館では上映されたことのない珍しい作品です。

POLE 第 8 号(1989.8.9)目次

- 〈第 7 回例会〉「ポーランドの舞台女優ヤドヴィガ・ロドヴィチさんと語る会」(1989.8.30)のお知らせ、ポーランド語講習会(1989.9.5～)の生徒募集…………… 1
- 〈第 8 回例会〉「ポーランド映画の世界」②プルス原作・ハス監督『人形』上映会(1989.9.30)のお知らせ・解説「大作家プルスについて～『人形』上映会に寄せて」(灰谷慶三)…………… 2